

高橋龍太郎コレクション連携企画 川端龍子プラスワン（前期）

「川内理香子 LOVE, Wild Grape, Tiger, heart」を開催

2026 年 9 月 12 日（土）～11 月 8 日（日）



高橋龍太郎コレクションより

[左] 川内理香子《LOVE》2024 年、[中央] 川内理香子《Baby》2022 年、[右] 川内理香子《Forest of the night》2019 年

※本リリース掲載の全ての川内理香子作品は、©Rikako Kawauchi, courtesy of the artist and WAITINGROOM
Photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

■ 展覧会概要

日本屈指のアートコレクターとして知られる精神科医・高橋龍太郎氏のコレクションとの連携で、高橋氏が注目する現代アーティストの作品を日本画家・川端龍子（かわばたり ゆうし、1885-1966）の作品とともに展示する「川端龍子プラスワン」を、龍子記念館で開催します。高橋氏は 1997 年から作品の収集を始め、現在、3,500 点以上におよぶという日本の現代アートのコレクションは「高橋龍太郎コレクション」と呼ばれ、国内外の様々な展覧会で紹介される他、2024 年には東京都現代美術館で「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」が大々的に開催されています。

龍子記念館においては、2021 年に高橋龍太郎コレクションと龍子記念館が連携することで実現した、コラボレーション企画展「川端龍子 vs. 高橋龍太郎コレクション 会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃」を皮切りに、2023 年に「川端龍子プラスワン 濱田樹里・谷保玲奈 ——色彩は踊り、共鳴する」、2025 年にコラボレーション企画展「ファンタジーの力」と企画展を開催し、大きな注目を集めてきました。

今回の「川端龍子プラスワン」では、前期に川内理香子、後期に近藤亜樹が川端龍子の作品と向き合い、自らの作品とどのような共鳴を呼び起こせるか試みます。まもなく没後 60 年を迎える川端龍子——。その作品を再解釈、再評価する大きな可能性を秘めた展示となるでしょう。現代アーティストと川端龍子の対話によって生まれる空間の体験をお楽しみください。

前期に出品する川内理香子は、食や神話を起点に身体、生命、他者性といった普遍的なテーマを、ドローイングやペインティングにとどまらず、針金、ネオン管、大理石等の多様な素材を使い表現しています。本展では、高橋龍太郎コレクションが所蔵する

《LOVE》(2024)、《The tiger jumps over a dancing pretzel》(2024)、《Baby》(2022)等の大作や針金を使用した《limb》(2018)、ドローイング《grow》(2019)等を川端龍子の《虎の間》(1947)や《山葡萄》(1933)等の大画面の作品とともに展示します。また、旧川端龍子邸の画室や客間においても川内の作品を展示し、龍子が追求した芸術観に新たな彩りを加えます。

※後期は、2026年11月21日(土)～2027年1月24日(日)に「近藤亜樹 吾は、わたしは、」を開催します。

■ 出品作家・川内理香子

1990年生まれ。多摩美術大学在学時より『第1回 CAF 賞』で保坂健二郎賞(2014)、SHISEIDO ART EGG 賞(2015)を受賞。その後、2021年の『TERRADA ART AWARD 2021』では寺瀬由紀賞、2022年にはVOCA 賞を受賞し、注目を高めている。

近年の個展としては、黒部市美術館で「川内理香子 The shape of water hardens into stone.」(2025)を開催、海外でもドイツやイタリアで個展を開催している。

パブリックコレクションとして、高橋龍太郎コレクションのほか、金沢21世紀美術館、アルベルティーナ美術館(オーストリア)、弘前れんが倉庫美術館、アーツ前橋、愛知県美術館等に作品が所蔵されている。

■ 高橋龍太郎コレクション

精神科医、高橋龍太郎(1946-)が1997年から本格的に始めた、最大級の日本の現代美術コレクション。草間彌生、合田佐和子を出発点とし、特に1990年代以降の重要作家の初期作品・代表作を数多く有する。これまで「ネオデニー・ジャパン 高橋コレクション」(2008-2010 鹿児島県霧島アートの森、上野の森美術館ほか)、「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」(2013-2014 名古屋市美術館ほか)、「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」(2015 東京オペラシティアートギャラリー)、「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」(2024 東京都現代美術館)など国内外28の公立・私立美術館でコレクション展が開催されてきた。2020年、現代アートの振興、普及への多大な貢献を認められ、令和2年度文化庁長官表彰を受賞。その総数は3500点を超え、現在もなお若手作家の最新動向を中心に拡大中である。

高橋龍太郎コレクション連携企画 川端龍子プラスワン（前期）
「川内理香子 LOVE, Wild Grape, Tiger, heart」

■会期

2026年9月12日（土）～11月8日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）

休 館：月曜日（9月21日（月・祝）、10月12日（月・祝）は開館し、
9月24日（木）、10月13日（火）に休館）

■入館料

一般：未定、中学生以下：未定

※65歳以上、未就学児及び障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

■主催

（公財）大田区文化振興協会

■協力

高橋龍太郎コレクション、医療法人社団こころの会、WAITINGROOM

■会場

大田区立龍子記念館（東京都大田区中央4-2-1 TEL 03-3772-0680）



- ・ JR京浜東北線大森駅西口から東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車、「白田坂下」下車、徒歩2分
- ・ 都営地下鉄浅草線 西馬込駅南口から馬込桜並木通り（桜のプロムナード）に沿って、徒歩15分

■ その他の主な出品作品



[左]川内理香子《The tiger jumps over a dancing pretzel》2024 年、高橋龍太郎コレクション

[右]川内理香子《shell》2020 年、高橋龍太郎コレクション



[左]川内理香子《touch of volume》2021 年、高橋龍太郎コレクション

[右]川内理香子《grow》2019 年、高橋龍太郎コレクション



[左]川内理香子《heart》2018 年、高橋龍太郎コレクション

[右]川内理香子《limb》2018 年、高橋龍太郎コレクション



川端龍子《虎の間》1947年、大田区立龍子記念館蔵



左から川端龍子《山葡萄》1933年、《秋縁》1947年、《獺祭》1949年
3作品とも大田区立龍子記念館蔵

■ 広報についてのお問合せ

本展紹介のための作品画像の使用に関しては、下記までお問合せください。

※作品画像のほか当館の外観や龍子公園の画像もご用意いたします。

※使用に際しては、掲載・放映内容を事前に確認させていただきます。

※使用後、掲載誌および放映が記録されたメディアを見本として当館まで
ご送付ください。

【お問合せ先】

大田区立龍子記念館 〒143-0024 東京都大田区中央 4-2-1

TEL & FAX : 03-3772-0680 学芸員 木村拓也・青木愛未